

新型コロナ感染拡大で大変なときなのに、みなさん、どう思いますか？

「**財政が厳しい**」
といいつつ

「**村岡新駅計画**」と周辺の大規模開発に

鎌倉市の総事業費は**500億円以上**も投入か？

所要時間わずか4分、
距離にして約4.6kmなのに
駅はいるの？



ココに村岡新駅をつくる？

藤沢駅から東京方面へのダイヤは、午前8時台は3分に1本間隔で走っているのに、2分で次の駅に停まる。

新駅計画を中止し、新型コロナ感染拡大防止対策、暮らし優先に税金を使うべきです。

乗降客数を推計65,800人といいますが、こんなに乗るんですか？

新駅乗降客の推計は開発エリア等新規利用者30600人。また、JR大船、藤沢駅、モノレール深沢、町屋駅など既存駅利用者のうち、35200人が新駅利用と推計。その中には横浜市栄区からも460人などとなっています。駅勢圏と見込む深沢地域、藤沢の周辺のなかにも既存駅に出た方が近い地域が含まれています。乗降客推計の数字、にわかに信じられないものです。
(平成24年度委託調査報告書から)

新駅設置計画と一体で進める市民合意のない「3つの問題」

① 市役所移転など 税負担は約360億円も

行政機能の一極化、機能縮小は問題

鎌倉時代以来、行政の中心地は鎌倉地域に位置してきました。一方で、町村合併により現在の5地域（大船、鎌倉、玉縄、深沢、腰越）が形成されて今日に至っています。地域性を大切にしたい合意形成が重要ではないでしょうか。

行政機能は一極化ではなく5地域における分散化を進め、地域福祉など、きめ細かい行政サービスの充実こそ求められています。今後、現在の本庁舎の長寿命化を図りながら（耐震工事は実施済）、行政機能のあり方については本庁舎移転計画の是非を含め、十分な合意形成を図るべきです。

深沢の土地区画整理事業205億円（内訳 市36億円、国35億円、保留地処分金134億円*）
※地権者が供出した土地を売ったお金

② 深沢地域は 洪水・浸水の危険が…

最大規模雨量に見合う計画なし

深沢地域は、柏尾川の浸水想定区域に入っています。市役所移転計画において市長は、市役所のかさ上げを言いましたが、これは浸水対策のためではありません。さらに市は、洪水浸水対策として「鎌倉市下水道総合浸水対策計画（基本計画）」を示していますが、最大規模雨量に見合う計画ではありません。この地域のまちづくりは、市役所移転ありきではなく、洪水や浸水対策、災害拠点を優先的に整備するとともに、財政問題や交通問題をはじめ「市民の命を守る対策」が求められているのではないのでしょうか。



2020年9月・10月号外
日本共産党の見解・政策をお知らせします。

日本共産党鎌倉市委員会
〒247-0055 鎌倉市小袋谷1-6-14 TEL 0467(45)1591 FAX 0467(45)4353

③ 「スーパーシティ構想」 鎌倉市が応募か

「住民合意」は後回し監視社会の懸念

ことし5月に国会で成立した国家戦略特区「スーパーシティ構想」（国・自治体・企業からなる特区）。鎌倉市は、深沢整備地区を念頭にことし9月の対象地域選定にエントリーする意向。個人情報や企業にゆだね、規制緩和をすすめるものですが、市民との合意形成は対象地域になってから。カメラを設置し、住民に対する管理・監視につながる懸念も。データの一元管理で情報漏洩リスクが高いなどの問題が指摘されています。

個人情報心配

- マイナンバー
- 住民の収入
- 預貯金
- 税金
- 健康状態
- 行動軌跡



みなさんと力をあわせ新駅ストップへがんばります

日本共産党鎌倉市議団



市議会議員
吉岡 和江



市議会議員
高野 洋一



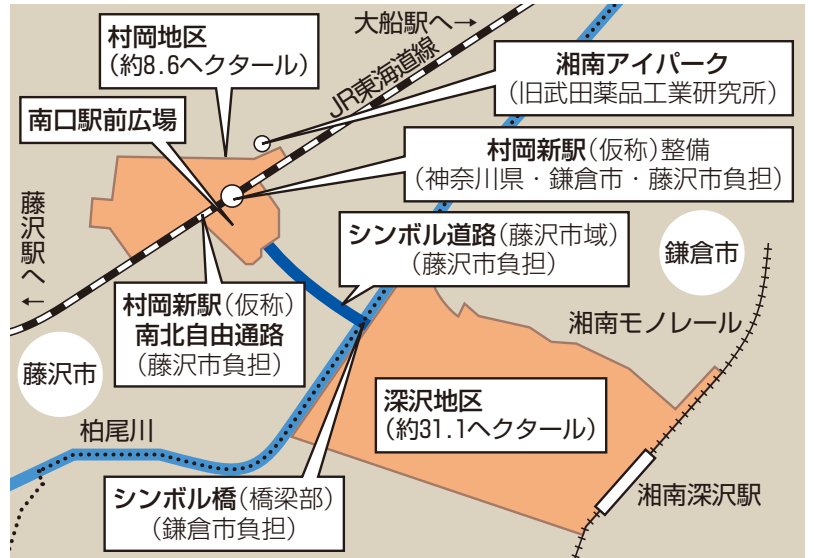
市議会議員
武野 裕子

住民合意のない
村岡新駅

必要なのでしょうか

住民のための 駅ではない!

大規模開発 ありきで推進! 大企業支援



新駅予定地は、村岡地域にある国鉄貨物駅跡地。柏尾川をはさんで隣の深沢地域では、鎌倉市が元国鉄大船工場を中心とした31ヘクタールの土地に、深沢まちづくり計画（土地区画整理事業＝地権者は大規模地権者のJR及び鎌倉市、個人等地権者約78人）を推進する方針。

村岡・深沢地域のこれまでの動き

- 村岡・深沢地域の大規模開発の動きがはじまったのは1956年頃。
- 1963年には、武田薬品工業湘南工場が村岡地区で操業を開始。
- 2006年、武田薬品工業の湘南工場が生産を終了。
- 1985年には国鉄湘南貨物駅が廃止され、97年に藤沢市が跡地を約42億円で購入しました。

知事、武田薬品に新駅誘致を約束

2006年当時、松沢成文知事が武田薬品工業の社長と面談し、県が補助金を出す方向で新研究所誘致を要請。その後、武田薬品工業は07年1月、神奈川県に「インベスト神奈川」（企業誘致政策）の補助金を申請、JRに村岡新駅をつくるよう要請、これを受け、松沢知事は積極的に新駅誘致設置を約束。その後に誘致された研究所は、現在、研究所機能は縮小しています。

武田薬品工業に至れりつくせり

- 神奈川県が武田薬品工業に補助金66億4500万円も。
- 藤沢市は、固定資産税10億円以上減免など

県と藤沢、鎌倉両市の整備負担を合意

2018年12月27日、県と藤沢、鎌倉両市は「村岡新駅（仮称）設置協議会」を設立。新駅設置には、県3割、残りの7割を両市が5：5の割合を基本に負担すること。村岡、深沢両地区を連絡するシンボル道路等は藤沢市、柏尾川を渡るシンボル橋は鎌倉市が整備することで合意。2019年1月、県知事と藤沢、鎌倉の両市長が、JR東日本に新駅設置を正式に要望しました。

知事、武田薬品工業と連携、新駅設置へコメント

2019年4月の知事選で黒岩祐治知事が2期目に、県は19年度県予算に「村岡・深沢地区拠点づくり実現化推進事業費」を計上。黒岩知事は、新駅設置に関し「県は武田薬品工業と連携したヘルスケア分野の産業創出」のため「新駅設置」を行うとコメントを出しました。

県と2市の負担割合の試算

県民、市民の税金を投入



JRが「新駅概略設計」を担い、駅建設の負担、JRはゼロか
「新駅概略設計」の負担金約3億円を3県市負担。

- 藤沢市は、自由通路約20億円、南口広場3億6千万円を見込む。
- 鎌倉市は、深沢土地区画整理事業で205億円見込む。
- シンボル道路と橋を合わせ30～70億円（藤沢、鎌倉両市負担）。

神奈川県が推進で旗振り役

新駅誘致の動きが加速したのは2018年で、黒岩県政が推進の旗振りをしたから。

この年の3月、村岡・深沢地区まちづくりについて新駅を中心に両地区を一体に開発する可能性調査結果が出され、拍車がかかりました。4月には、黒岩祐治知事は、県が進めるヘルスケア・ニューフロンティア政策の一環として湘南研究所をオープンイノベーション拠点とし、ベンチャー企業への支援などを行うことを発表。

さらに、2019年5月、県、藤沢市、鎌倉市、武田薬品(ヘルスイノベーションパーク)、湘南鎌倉総合病院の5者で、村岡・深沢地区におけるヘルスイノベーション最先端拠点形成等の推進に向けて覚書を締結。

こうして、県が進める政策実現のために、藤沢、鎌倉両市のまちづくりと新駅設置を促進する役割を果たしています。

新駅建設止めるなら今です



住民の世論と運動で村岡新駅計画を中止させましょう。

藤沢、鎌倉の市民からは、「税金の使い方おかしくないか」「なぜ自社の駅なのにJRは金を出さないのか」「新駅はいらない」など疑問や批判の声があいついでいます。現在、新駅の概略設計段階です。当事者は、これを見て判断するとしています。都市計画決定も必要で、先行きが見通していません。それにもかかわらず、鎌倉市はことし12月、藤沢市は今年度中に決定するとしています。

共産党は県議会でも藤沢、鎌倉市議会でも新駅計画中止を要求

日本共産党の畑野君枝衆院議員と県議団、藤沢市議団、鎌倉市議団は8月23日、村岡新駅計画のある藤沢市村岡地域、大規模な土地区画整理事業が計画されている鎌倉市の深沢地域を視察しました。住民のみなさんも参加し、交流しました。(写真)